

運営委員会

【委員長】 高山 理恵 (岡谷市社会福祉課)

【副委員長】 北原 由紀 (ゆらり相談支援センター)

【役割】

協議会の企画・提案を行うとともに、部会や地域関係者からの課題を整理し、協議会内の調整と解決に向けた検討を行う。

【開催と協議内容】

第1回 5月9日(月)

- ・オアシスの評価について
- ・日中サービス支援型グループホーム評価について
- ・各部会、委員会 令和3年度報告/令和4年度計画と予算
- ・令和3年度協議会での取り決め、作成物について
- ・強度行動障害についての協議の場の提案

第2回 7月21日(木)

- ・諏訪地域障がい福祉自立支援協議会設置要綱の改正について
運営委員の選出の区分けの変更
評価委員の選出について

第3回 9月15日(木)

- ・医療的ケア児等コーディネーターの配置について
- ・諏訪地域障がい福祉自立支援協議会設置要綱の改正について
- ・令和3年度障害福祉計画・障害児福祉計画の進捗状況について

第4回 11月2日(水)

- ・11/10 全体会議について
部会・委員会中間報告、医療的ケア児等コーディネーターの配置について、
諏訪地域障がい福祉自立支援協議会設置要綱の改正について
- ・令和3年度障害福祉計画・障害児福祉計画の進捗状況について

第5回 1月19日(木)

- ・全体会議意見交換会報告
- ・県自立支援協議会への課題提出の進め方について
- ・障がい福祉サービス利用ガイドブック(令和3年3月改訂版)の追加情報シートについて

第6回 3月16日(木)

- ・オアシス業務継続に係る検討会の経過報告
- ・令和5年度協議会フォーラムについて

【まとめ・次年度へ】

- ・自立支援協議会設置要綱の一部改正や医療的ケア児等コーディネーターの配置など、重要な課題について協議・調整を行った。
- ・専門部会や委員会、行政連絡会から提示される課題について、多角的な視点で丁寧に検討・協議することにより、円滑な協議会運営による地域福祉の向上を目指す。

行政連絡会

【正】 高山 理恵 （岡谷市社会福祉課）

【副】 植松 朋生 （諏訪市社会福祉課）

【役割】 協議会からの提案等について、行政の見地から調整、検討を行う

【構成員】 6市町村係長、諏訪保健福祉事務所福祉課係長、正副運営委員長、オアシス

【開催 協議内容】

第1回 令和4年4月21日（木）

- ・医療的ケア児等コーディネーターの配置について
- ・オアシスの市町村評価について
- ・自立支援協議会設置要綱の改正について
- ・日中サービス支援型グループホームの評価について
- ・差別解消支援地域協議会の周知啓発活動について
- ・地域生活支援拠点等事業実施要綱と取扱要領の確認

第2回 令和4年6月16日（木）

- ・医療的ケア児等コーディネーターの配置について
- ・自立支援協議会設置要綱の改正について
- ・地域生活支援拠点等事業実施要綱と取扱要領について

第3回 令和4年8月18日（木）

- ・医療的ケア児等コーディネーターの配置について
- ・自立支援協議会設置要綱の改正について
- ・地域生活支援拠点等事業実施要綱と取扱要領について
- ・精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの協議の場について
- ・令和3年度障害福祉計画・障害児福祉計画の進捗状況について

第4回 令和4年10月20日（木）

- ・自立支援協議会設置要綱の改正について
- ・カフ圧計について
- ・ストーマの対応について
- ・「サービス等利用計画」等圏域別作成状況と加算の取得状況（県資料）について
- ・不登校児の放課後等デイサービスの利用状況について

第5回 令和4年12月15日（木）

- ・県自立支援協議会への課題提出について
- ・介護給付費に係る支給決定基準について
- ・地域体制強化共同支援加算について
- ・緊急入所の対象者について（住所要件等）
- ・拠点推進会議の要綱について
- ・日常生活用具の支援（ストーマ等）について

第6回 令和5年2月16日(木)
・オアシス業務継続に係る検討

【まとめと次年度へ向けて】

行政の立場で、制度改正や喫緊の課題について情報共有することにより、地域の課題解決の視点をもって取り組むことができた。

必要性や緊急度を考慮し、圏域内の意見や要望をしっかりと捉え、中長期的な視点で解決を図る必要のある課題については、検討の経過を残しつつ、一定の方向が出せるようにしていきたい。

地域生活支援拠点事業推進会議

- 【会長】 大澤 英恵（オアシス）
【副会長】 藤巻 和彦（はらむら悠生寮）
清水 利恵（茅野市地域福祉課）

【今年度の協議目標】

高齢化や重度化、障害福祉サービス等のニーズや課題に応じて、求められるサービスが提供できるよう機能強化に向けて、様々な関係者が知恵を出し合い地域づくりを進める。

【構成員】

○実施要領第5条に規定する「連絡会」として位置づけ、6市町村担当係長、諏訪保健福祉事務所福祉課係長、障害福祉サービス事業者（空床確保協力3事業所、相談支援事業所）、オアシス及び拠点コーディネーターを構成員とする。

【開催経過と協議内容】

第1回 全体会 令和4年7月29日（金）

- ・緊急時の受け入れ状況について
- ・取り扱い要領、要綱についての確認
- ・強度行動障害における検討の場について

第2回 全体会 令和4年11月4日（金）

- ・緊急時の受け入れ状況について
- ・地域体制強化共同支援加算の取り扱いについて
- ・強度行動障害WGについて

第1回コアメンバー会議 令和4年6月7日（火）

- ・緊急時の受け入れ状況について
- ・取り扱い要領についての確認
- ・強度行動障害における検討の場について

第2回コアメンバー会議 令和4年6月8日（水）

- ・取り扱い要領についての確認
- ・強度行動障害における検討の場について
- ・生活介護事業における課題調査の検討

第3回コアメンバー会議 令和4年9月2日（金）

- ・緊急時受け入れについての課題
- ・強度行動障害WG報告
- ・加算の取り扱いについて

第4回コアメンバー会議 令和4年12月6日（火）

- ・強度行動障害WG報告
- ・次年度役員について

第1回 強度行動障害WG 令和4年7月12日（火）

- ・ワーキング立ち上げの経過報告
- ・課題の共有

第2回 強度行動障害WG 令和4年8月18日（木）

- ・グループを3つに分けての議論

第3回 強度行動障害WG 令和4年10月6日（木）

- ・行政、事業所、相談に分かれての情報交換報告

第4回 強度行動障害WG 令和4年12月23日(金)

- ・療育支援部会から強度行動障がい児の受け入れ体制についての提案
- ・アンケート結果共有
- ・グループに分かれて検討

第5回 強度行動障害WG 令和4年2月10日(金)

- ・グループに分かれての検討

【評価及び今後の課題】

- ・今年度の緊急時受け入れの実績は5件。内容としては家族間、夫婦間のトラブルから緊急受け入れの利用となった。
- ・強度行動障ワーキングが立ち上がり、諏訪圏域の課題の共有や議論が積極的に進められている。
- ・登録台帳に載っている方々の施設見学や体験が増えて来ており、ご家族や相談員の先を見据えた支援が進んでいる。
- ・緊急時も滞りなく要請があれば全ての受け入れをした。
- ・受け入れ施設でコロナが発生した際は、それぞれの施設で輪番月を変更するなど、協力しながら受け入れを行った。
- ・拠点事業の実施主体である市町村が中心になり要領改正の検討を進めている。秋の全体会までに完成予定。
- ・拠点事業等の整備に必要な①相談支援、③体験の場・機会、④専門的人材の確保・養成について、今後も引き続き取り組む。

【その他】

- ・精明学園が『のらざあ』の登録場所になり事業所間の行き来が便利になっている。

人材育成委員会

- 【委員長】** 鈴木 美和子 (オアシス)
【副委員長】 中村 修 (ゆらり相談支援センター)
 今井 慎二 (下諏訪町保健福祉課)

【委員会開催と活動内容】

第1回 令和4年7月13日 (水)

- ・ 諏訪圏域人材育成ビジョンに基づいた行動計画について
- ・ 重層的支援体制整備事業について (各市町村の取組)
- ・ 圏域新任職員研修会について

第2回 令和4年11月16日 (水)

- ・ 諏訪圏域人材育成ビジョンに基づいた行動計画についての説明
- ・ 諏訪圏域の相談支援体制づくりについて

第3回 令和5年1月24日 (火)

- ・ オアシスの人員体制と業務の整理について

第4回 令和5年3月17日 (金)

- ・ 諏訪圏域の相談支援体制の現在の課題について

【評価及び今後の課題】

〈評価〉

- ・ 作成した人材育成ビジョンに基づき、諏訪圏域の課題「相談支援体制整備」の検討について着手することができた
- ・ 委員会を開催する中で、基幹センター・行政・主任相談員・自立支援協議会・サービス事業所それぞれの人材育成に関する課題を討議、意見交換することができた

〈今後の課題〉

- ・ 今年度末に出されたオアシスの人員体制に関する課題にあわせて、当面の課題 (新年度に向けた課題) と中長期にわたって検討する課題 (相談支援体制整備) について、検討をしていく必要がある。

具体的には、地域の中核的機関としての「基幹センターのあり方」、基幹センターと共に第3層を構成し、地域課題を検討する場としてその運営体制について検討する「協議会のあり方」、当事者支援のインテイク機関である市町村等が中心として検討が必要な「障害者相談支援事業 (委託相談) のあり方」、専門的人材として圏域に配置されて、地域の相談支援体制の中での位置づけを検討する「主任相談支援専門員のあり方」についての検討をすすめる

【決算】

科目	収入額	支出額	差引金額	摘要
今年度予算	35,000 円			
新任職員研修	17,000 円			参加費
		5,306 円		事務消耗品
		30,678 円		資料コピー代
合計	52,000 円	35,984 円		
当期残額			16,016 円	

権利擁護委員会

【委員長】 植松 朋生 (諏訪市社会福祉課)

【副委員長】 北原 由紀 (ゆらり相談支援センター)

【今年度の協議目標】

- ・「障害者虐待防止の更なる推進」にて義務化された項目について実施状況の把握と課題への検討
- ・障害者差別解消支援地域協議会の周知と活用への取り組み

【委員会開催と活動内容】

○第1回 令和4年6月29日(水)

- ・令和4年度計画書報告
- ・長野県自立支援協議会権利擁護部会報告
- ・成年後見センターからの報告
- ・令和4年度活動内容について
- ・差別解消についての啓発について(協議会フォーラム企画案)

○第2回 令和4年10月12日(水)

- ・長野県権利擁護部会報告
- ・成年後見センターからの報告
- ・フォーラム実行委員会からの報告
- ・就労支援部会からの報告
- ・成年後見制度の現状と課題
- ・差別解消支援地域協議会について
- ・虐待通報と対応についての現状と課題

○第3回 令和5年2月14日(火)

- ・長野県権利擁護部会報告
- ・成年後見センターからの報告
- ・自立支援協議会全体会からの報告
- ・フォーラム実行委員会からの報告
- ・虐待通報と対応についての現状と課題(アンケート回答から)
- ・差別解消支援地域協議会について

【協議内容のまとめ】

- 障害者差別解消支援地域協議会の周知を含めたフォーラムを就業支援者と共同開催し、一般就労場面における合理的配慮に関する事例報告を行った。また、差別や合理的配慮不足が生じた際の相談先も明記した障害者差別解消支援地域協議会のチラシを作成し配布した。
- 令和3年度の報酬改定に伴う虐待防止委員会設置、身体拘束適正化委員会設置、

虐待防止・権利擁護研修の実施については、県行政・市町村行政が行う実地指導にて周知を図ることができた。

○各市町村における令和3年度の虐待通報・虐待判断・虐待判断しなかった場合の対応について共有し、意見交換ができた。

○以前より成年後見人の役割については委員からも疑問の声が上がっていた。成年後見支援センターの委員から説明を受けたことで、委員会全体が後見業務への理解を深めることができた。

【今後の課題】

○障害者差別解消支援地域協議会を立ち上げたが、地域での差別・合理的配慮不足の具体的事例の抽出や地域の課題の把握を積極的に行う必要がある。

○令和3年度の報酬改定に伴いサービス提供事業者が行う権利擁護への取り組みに関する周知に留まっており、委員会設置状況や研修の開催状況に関しての把握は未実施となっている。継続して委員会の活動状況や研修の実施状況に関しては把握する取り組みが必要である。

○障がい者虐待に関しては、「防止・通報の責務」「通報⇒虐待対応⇒終結の責務」について事業所が行うこと・行政が行うことの再確認が必要である。また、虐待判断しなかった場合の対応や支援チームのコーディネートが課題となっている。

○圏域内4つの成年後見支援センターが抱える課題、特に「障がい」に特化した課題共有を行い、協議会の取り組みに関して検討が必要である。

【決算】

科目	収入額	支出額	差引金額	摘要
今年度予算	50,000円			
差別解消支援地域協議会パンフレット		2,080円		カラーコピー代
合計	50,000円	2,080円		
当期残額			47,920円	

(令和5年3月31日現在)

令和4年度 茅野市・原村成年後見支援センター報告

1. 相談実績

(1) 相談件数

① 全体（新規件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R3年度	11	8	3	6	4	1	5	3	5	2	1	0	48
R4年度	0	0	2	1	3	2	4	2	5	2	1	3	25
件数差	△11	△8	△1	△5	△1	1	△1	△1	0	0	0	3	△23

② 相談元（被後見からの相談を含む）

	市町村	地域包括	障がい者総合 支援センター	福祉事業所	当事者・ 本人	家族支援
R3年度	84	5	14	46	62	104
R4年度	29	4	0	26	7	44
件数差	△55	△1	△14	△20	△55	△60

(2) 相談傾向・内容について

- ・相談対象者別では、認知症高齢者の割合が77%を占めている。
- ・市町村からの相談では、首長申し立てに関する内容の割合が高い。
- ・家族（親族）からの相談では、本人と同居していないケースが増加傾向。
- ・成年後見制度について、本人や親族の意向が十分に反映されないことを理由に、利用に否定的な相談が複数あった。

(3) 相談内容

- ・空き家となっている土地の樹木が伸びて近隣に迷惑をかけている。空き家の所有者（本人）は高齢で施設入所中。本人の兄弟からの相談。親族申し立てにより専門職（弁護士）後見となり解決。
- ・独居の高齢視覚障害者。子供なし。不動産を含め高額な財産あり。これまで面倒を見てきた甥の申し立て支援。甥自身が後見人となる。

2. 課題

- ・複合的な課題を抱え、後見制度の利用だけでは解決に至らない相談が多い。また、後見制度の利用ではなく、他の解決策を検討することが適切と思われる事例もあり、関係機関（支援者）の連携がなければ課題解決につながらない。
- ・諏訪圏域の第三者後見人の受任候補者が不足しており、早急な対応が必要。

令和4年度 諏訪市・下諏訪町成年後見支援センター報告

1. 相談実績

(1) 相談件数

① 全体（新規件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R3年度	5	4	7	2	5	8	4	5	3	7	4	5	59
R4年度	4	3	7	5	6	4	5	5	4	3	3	5	54
件数差	△1	△1	0	3	1	△4	1	0	1	△4	△1	0	△5

② 相談元（被後見からの相談を含む）

	市町村	地域包括	障がい者総合 支援センター	福祉事業所	当事者・ 本人	家族・親族
R3年度	88	7	58	128	108	113
R4年度	156	16	20	195	99	146
件数差	68	9	△38	67	△9	33

(2) 相談傾向・内容について

- ・継続相談件数の増加（R元:273件→R2:379件→R3:438件→R4:605件）
- ・対象者の区分は、認知症：47%、知的障がい者：43%、精神障がい者：8%
- ・行政、地域包括、福祉事業所からの相談が増加している。

(3) 相談内容

- ・精神障害があり入院が長期化し、転院に際し後見人が必要となった。（医療機関）
- ・後見人である親族が高齢となり、後見人の交代がなされた。（親族）
- ・使途不明金や搾取が疑われるケース（行政）

2. 課題

- ・行政をまたぐ案件の増加（複数の行政が関与する案件 11件中6件）
- ・支援チームの構築の重要性
 - 後見制度利用で課題が解決するわけではなく、支援チームの一員として継続して関わることで信頼関係が築ける。
- ・制度に即応しない案件（浪費・多重債務・介入拒否）の伴走的支援
 - スマホによるキャッシュレスで購買契約・決済が可能となり、またそれに紐づけされた光熱費やサービスの内容が見えず、課題の実相把握が困難。
- ・コロナ禍で身上保護業務の範囲について
 - 被後見人が陽性となった場合、どのように支援していくか。今後も起こりうる事態であり対応の検討が必要。

令和4年度 岡谷市成年後見支援センター報告

1. 相談実績

(1) 相談件数

① 全体（新規件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R3年度	0	2	3	3	5	3	4	5	4	4	4	4	41
R4年度	1	0	1	0	2	4	2	6	17	18	15	19	85
件数差	1	△2	△2	△3	△3	1	△2	1	13	14	11	15	44

② 相談元（被後見からの相談を含む）

	市町村	地域包括	障がい者総合 支援センター	福祉事業所	当事者・ 本人	家族支援
R3年度	62	※市町村含む	2	※市町村含む	206	76
R4年度	81	※市町村含む	2	※市町村含む	244	62
件数差	19		0		38	△14

(2) 相談傾向・内容について

- ・開所から4年目となり段々と後見支援センターが地域の方々から認知されてきており、前年度より新規件数が増加傾向であった。全体の相談件数は前年度とほぼ横ばいであった。（全体の相談件数：延べ513件）
- ・電話対応と訪問対応が合わせて8割程。来所は1割未満と少ない。昨年度に比べて会議での相談が増加している。
- ・延べ相談件数のうち、対象者の割合として「認知症高齢者」「知的障がい者」「精神障がい者」共に3割程。
- ・本人からの相談が約半数を占めている。行政（包括含む）からの相談ケースが昨年度より20件程増加している。半数ほどが身寄りのない方の相談ケースであった。

(3) 相談内容

- ・「金銭トラブル」起因する相談が多く傾向がある。また公正証書の作成や登記についての相談対応が求められるケースが増加してきている。

2. 課題

- ・「成年後見制度」の利用で、「専門職」や「法人」等の第三者後見人を希望される場合、受任候補者を見つけることが難しい（専門職等のマンパワーに余力が無い）。今後、新たな担い手（市民後見人や、社協以外の法人後見人等）の確保が必要になってくる。
- ・「日常生活自立支援事業」、「成年後見制度」共に身寄りのない方のケースが増えてきている。終活や死後事務等の必要性の高まりが感じられ、今後の取り組みとして検討が必要になってくる。

令和4年度 富士見町成年後見支援センター報告

1. 相談実績

(1) 相談件数

①全体（新規件数）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
R3年度	6 (3)	7 (2)	6 (3)	5 (3)	4 (4)	3 (0)
R4年度	10 (4)	11 (3)	6 (1)	9 (3)	5 (1)	8 (2)
件数差	4 (1)	4 (1)	0 (△2)	4 (0)	1 (△3)	5 (2)

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R3年度	5 (3)	5 (2)	8 (6)	3 (1)	3 (1)	7 (1)	62 (29)
R4年度	7 (2)	4 (1)	4 (2)	6 (2)	3 (0)	4 (4)	77 (25)
件数差	2 (△1)	△1 (△1)	△4 (△4)	3 (1)	0 (△1)	△3 (3)	15 (△4)

②相談元（被後見からの相談を含む）

	市町村	地域包括	障がい者総合 支援センター	福祉事業所	当事者・ 本人	家族・親族	その他
R3年度	1	0	0	5	4	18	1
R4年度	1	3	1	6	1	13	0
件数差	0	3	1	1	△3	△5	△1

(2) 相談傾向・内容について

①対象者の内訳

認知症：13名 知的障がい：1名 精神障がい：5名 その他（※）：6名

（※）その他：身体障がい・ボーダーの方・身寄りのない方 など

②相談内容

家族名義の財産について：10名 高齢者の金銭管理について：6名

障害のある家族の将来について：4名 身寄りがいないことについて：2名

終活について：3名

(3) 相談内容

障害に関する相談として、以下のようなものがある。

<家族からの相談>

- ・いまは自分が面倒をみているが、自分が倒れた時のために、成年後見制度について知っておきたい。

<支援者からの相談>

- ・精神障害で妄想あり。高額の資産があるが、不動産屋と売買契約の打合せをしてしまう

など金銭管理に不安がある。

- ・精神病院へ長期入院中。いまは家族が面倒を見ているが、高齢。家族が倒れた時に備え、成年後見制度について家族に説明してほしい
- ・知的障がい。身寄りがなく独居。肺がんの疑いがあるが、治療方針の決定に支援が必要。

2. 課題

① 受任候補者を推薦する仕組みに改善が必要

諏訪圏域においては以下の背景から、センターで成年後見人申立ての相談を受けても、受任候補者推薦まで至らない場合がある。

→ 行政も交えて課題解決に向けた取組みが必要。

フォーラム実行委員会

【委員長】 石井 艶子（はらむら悠生寮）

【副委員長】 河野 桂子（原村保健福祉課）

【役割/目的】

- ・協議会正副会長、行政係長、各部会から選出された2名より構成される。
- ・フォーラム開催に向けて、企画、周知、当日の運営等を行う。

【活動内容】

第1回 令和4年6月24日（金）

- ・フォーラムの内容、時期 等について
- ・企画案を部会員から募集
- ・正副実行委員長の選出

第2回 令和4年7月19日（火）

- ・フォーラムの内容について
→合理的配慮への取り組みをしている企業の講演会、オンラインによる事業所販売会
- ・今後のスケジュールについて

第3回 令和4年8月9日（火）

- ・フォーラムの具体的な内容等について
日時 12月17日（土） 13:00～15:00
内容 差別解消と合理的配慮についての基本的な説明
障害者雇用をしている企業の講話
- ・販売会参加希望を事業所へメールで確認

第4回 令和4年9月5日（月）

- ・企業5社へ依頼→決定
- ・サブテーマの決定
『「障害者雇用」から考える多様な個性が輝く地域のあり方』
- ・チラシの作成、配布について
- ・販売会実施の決定 説明会実施（9月27日、9月30日）

第5回 令和4年10月14日（金）

- ・チラシの内容、配布先の決定
- ・周知方法について
- ・当日の流れについて

第6回 令和4年11月9日（水）

- ・開催方法の決定について
- ・チラシの配布について
- ・当日の流れ、分担について

第7回 令和4年12月7日（水）

- ・会場配置、当日の流れの確認
- ・開催方法の決定→オンラインと会場で

第8回 令和5年2月2日（水）

- ・振り返り、来年度へ向けて

【令和4年度みんなが輝く地域づくりフォーラム】

日時：令和4年12月17日（土）13:00～15:00

場所：諏訪市総合福祉センター交流ひろば およびオンライン（Zoom）

サブテーマ：「障害者雇用」から考える多様な個性が輝く地域のあり方

内容：第1部 障害者差別解消法～合理的配慮について

講師：諏訪公共職業安定所 小林浩人様

第2部 障がい者雇用に積極的に取り組む企業の実践例紹介

(株)オーク製作所諏訪工場／(有)平林精機

住友電工オプティフロンティア(株)／(株)長野銀行下諏訪支店

参加人数：会場参加 42名・オンライン参加 37回線

オンライン協働販売会：参加事業所 7事業所＋養護学校2校 販売個数30個 売上51,120円

- ・企業から異なる視点での具体的な話が聞けたことは非常に良かった。福祉分野から企業へと開かれたフォーラムが開催できたと感じる。
- ・最終の企業の講話時間が短くなってしまい、時間配分、講話いただく企業数について課題が残った。また、一般企業からの参加も見込んでいたが、参加が少なく、開催日、周知の方法など工夫が必要と感じた。
- ・会場とオンラインのハイブリット形式の開催だったが、音声やパソコン画面のトラブルがあり残念だった。
- ・オンラインでの協働販売会は昨年と比べて売り上げが落ちてしまった。チラシの配布部数が昨年の4分の1程だったことも要因のひとつと考えられる。PRの仕方、WEBサイトの見やすさなど工夫が必要と感じた。
- ・会場参加者へのアンケートで、当事者の方からたくさんの感想をいただいた。

【決算】

科目	収入額	支出額	差引金額	摘要
今年度予算	320,000円			
チラシ		45,507円		印刷代、郵送料
協働販売会		65,450円		サイト作成報酬、商品送料
フォーラム		2,130円		垂れ幕
企業講話		28,648円		手土産、弁当代他
合計	320,000円	141,735円		
当期残額			178,265円	

(令和5年3月31日現在)

療育支援部会

【部会長】 坂本 由紀子 (諏訪圏域療育コーディネーター)

【副部会長】 守屋 康子 (長野県花田養護学校)

神戸 希代江 (富士見町教育委員会こども課)

【今年度の協議目標】

- ・ 諏訪圏域の子育て期の課題解決の方向の検討
- ・ 「第2期障害児福祉計画」に対する取組みの検討
- ・ 保護者・支援者の知りたい情報を把握し、情報提供と研修会の企画

【部会開催と活動内容】

☆療育支援部会

第1回 令和4年4月20日(木) Web会議

- ・ 新しい事業所の紹介「放課後等デイサービス事業所 ポパイ」
- ・ 今年度の計画について
- ・ スキルアップ研修について
- ・ グループワーク

WG①放課後等デイサービス・保育所等訪問支援事業の体制整備について

WG②児から者への切れ目のない支援体制整備について

WG③強度行動障がい児の受け入れ態勢について

WG④支援・相談窓口等の周知について

第2回 令和4年7月5日(火)

- ・ スキルアップ研修：Web 動画配信の視聴

①『「発達障がい」を知ろう』

②『発達特性から不登校を考える』

講師：本田 秀夫 先生 (信州大学医学部附属病院子どもの心診療部部長)

- ・ グループワーク

第3回 令和2年9月16日(金) Web会議

- ・ ミニ研修『高校入試における合理的配慮の申請フロー』

講師：長野県発達障がいサポートマネージャー 茅野 進 氏

- ・ グループワーク

第4回 令和4年11月29日(火) Web会議

- ・ 新しい事業所の紹介「放課後等デイサービス事業所 ウイズユー」
- ・ スキルアップ研修の振り返り
- ・ グループワーク

第5回 令和4年2月21日(火)

- ・ 新しい事業所の紹介「放課後等デイサービス事業所 ワンズ フォー ユー」
「放課後等デイサービス事業所 グリーン・デイ」
「放課後等デイサービス事業所 すわっこホーム」
- ・ ワーキンググループの報告

- 今年度の活動の反省・来年度の計画
- 第2期障害児福祉計画について：地域分析

【協議内容のまとめ】

- コロナ感染の拡大により3回のWeb会議と2回の対面会議となった。
- コロナ禍ということで今年度のスキルアップ研修はWeb講演会の動画視聴を実施し、各職場や保護者への啓発を行った。「職員会や研修会の機会が作れない中、動画視聴の学びの場が持てたことは良かった」という感想が多かった。内容についても「わかりやすく、見やすい動画で新任職員さん向けにも良かった」「職員の子どもたちに対する声掛けが変わってきた」という感想があった。
- ミニ研修として『高校入試における合理的配慮の申請フロー』のお話が聞けたことは、情報提供の場にもなり良かった。
- 4つのワーキンググループ（WG①放課後等デイサービス・保育所等訪問支援事業の体制整備について、WG②児から者への切れ目のない支援体制整備について、WG③強度行動障がい児の受け入れ態勢について、WG④支援・相談窓口等の周知について）を作り検討を行った。アンケート等を実施し課題の抽出や解決策を検討した。WG③については、地域生活支援拠点の整備事業検討会に結果報告を行った。

【評価及び今後の課題】

- コロナ禍の中、会議開催を柔軟に対応でき、Web会議でもグループワークが行えた事は良かった。しかし、対面に比べて深まった話し合いが出来にくい点があり課題の抽出や解決策を見出すまでには十分でなかった。
- 4つのワーキンググループの内容は、諏訪圏域の子どもたちの生活にとって大切なことであり引き続き検討を要すると考えている。課題は多岐にわたるためその抽出と解決策が見いだせなかったため来年度も引き続き検討していきたいと考えている。
- スキルアップ研修は、コロナ禍が続いていたためWeb講演会の視聴を行った。各職場で都合の良い時に視聴が出来たことは良かったとの感想が多く良い企画であったと考える。『発達障がい』について改めて考える機会になった」という感想もあり、来年度の研修会では、基本に返っての学びも良いかと考えている。

【決算】

科目	収入額	支出額	差引金額	摘要
R4年度部会費	50,000円			
研修会講師謝礼		0円		
		4,200円		郵送代
合計			45,800円	

(令和5年4月日現在)

地域生活支援部会

- 【部会長】 佐藤 恵 (赤とんぼ)
【副部会長】 松井 陽介 (グローブグループ)
井上 成美 (森の工房あかね舎)
金子 宏美 (原村保健福祉課)

【協議目標】

- ・地域で暮らす障がい者が日常でも有事の際にも安心して過ごせる環境づくりをしていく。
- ・事業所間のネットワークづくり、情報共有の場を作り地域全体の支援力を高める。

【部会開催と活動内容】

●部会

- 第1回 令和4年5月11日(水) 13:30～ Zoom
 - ・令和3年度部会報告、令和4年度部会計画の承認
- 第2回 令和4年8月10日(水) 13:30～ Zoom
 - ・意見交換「生活介護事業所連絡会で出された課題について」
- 第3回 令和4年11月8日(火) 13:30～
 - ・意見交換 「災害時情報シートについて」
- 第4回 令和5年2月8日(水) 13:30～
 - ・意見交換「地域課題や日頃の業務の困りごとから必要だと感じる学び(勉強会・講演会等)について」
 - ・来年度の活動内容について

●防災WG

- 「災害時情報シート」運用の実証実験として地域でのモデル(サンプル)ケースで検証
- 諏訪圏域6市町村の障がい当事者への災害対策の現状、要配慮者の個別避難計画の進捗の調査

●グループホーム連絡会

- 第1回 令和4年8月23日(火) 13:30～Zoom 参加者13名
意見交換 「令和4年度の取り組みについて」
- 第2回 令和5年1月27日(金) 13:30～ハイブリッド形式 参加者13名
 - ・動画視聴「障害福祉サービス施設・事業所職員のための感染対策 実践編(入所系)」
 - ・意見交換『新型コロナウイルス感染症対応の実践事例や今後のために必要な備えや対策について』

●生活介護事業所連絡会

- 第1回 令和4年8月1日(水) 13:30～ハイブリッド形式 参加者20名
 - ・令和3年度生活介護事業所実態調査の報告
 - ・地域生活支援拠点事業について
 - ・グループディスカッション「困っていること・知りたいこと/協議会で検討してほしいこと」

○第2回 令和5年1月31日(火) 13:30~ハイブリッド形式 参加者16名

・意見交換 「利用者の性への関心の対応について」

実践事例報告 自立訓練事業所「アートカレッジちやお」での取り組み

【評価及び今後の課題】

○防災ワーキングで作成した「災害時情報シート」の運用実証実験を通じて、シートに記入項目が多く、必要と思われる方全員に作成することや定期的な更新も困難であることがわかった。その後の検討から当事者や家族、支援チームのメンバーが防災意識を高めること、更新のしやすさを重視し、障害福祉サービスを利用する際に相談支援専門員が作成する「災害時情報シート」の内容を見直し、災害時情報シートとしても活用するのが有効との結論に至った。基本情報シートの中に災害時に必要となる最低限の項目を加えることで、避難行動要支援者登録の必要の有無の確認や、支援チーム内の平時から連携体制づくり、近隣地域などの支援先に繋げていくきっかけづくりになっていくことが期待できることから、内容・項目の精査や基本情報シートからヘルプカードへ自動転記の仕組みの検討も含め、相談支援部会で引き続きの協議をお願いしたい。

○GH連絡会では、コロナの対応について、動画の視聴と意見交換を行い有意義な情報交換ができた。来年度も活動を継続し、レクリエーションの企画や、世話人同士で話ができる場などを考えていきたい。

○生活介護事業所連絡会では困っていること、知りたいことなど有意義に議論していただけた。利用者の性への関心の対応については、事業所それぞれの困り感があり引き続き情報共有や勉強ができる場を設けること、また併せて権利擁護の視点での「障がい当事者の性と権利」をテーマとした勉強会や研修の必要性を感じた。

【決算】

科目	収入額	支出額	差引金額	摘要
今年度予算	50000円			
講演会謝礼		0円		
郵送料		0円		
合計	50000円	0円		
当期残額			50000円	

(令和5年3月31日現在)

就労支援部会

【部会長】 根村 隆司 (J u m p i n')

【副部会長】 飯田 清吾 (あやめ)
大和 康広 (岡谷市社会福祉課)
小林 浩人 (諏訪公共職業安定所)

【今年度の協議目標】

- ・今年度も就労支援部会の存在を理解するため「働く」という視点に立ち、其々の立場（事業所や職員）を通じて情報共有や相互理解が行えるような環境作り（座談会等）を継続して行いたいと考えます。
- ・長野県福祉計画を基に就労支援事業所の立場から一般就労への意識付け（取組み）を見知り、日常支援を通じて最終的に目標に行き至れるような話し合いを行う予定です。
- ・今年度の役員体制は昨年度の副部会長2名体制から、3名（A型職員1名、行政2名）で行う予定です。

【開催経過と活動内容】

- ・4月27日（水） 新役員顔合わせ（オアシスにて）
- ・5月9日（月） 第1回自立支援協議会運営委員会
部会長欠席（副部会長による代理出席）。
- ・5月12日（木） 第1回就労支援部会開催（交流ひろばにて）
内容としては、新年度役員の承認及び活動計画及び前年度の活動報告を行いました。また長野県福祉計画に基づいて「一般就労に向けての取組み状況について」のアンケート実施を行う旨の報告を行いました。
- ・7月12日（火） 役員打合せ（オアシスにて）
内容としては、アンケート内容の精査（一般就労への捉え方、利用者の高齢化）についての確認を行いました。
- ・7月20日（火） 県就労支援部会（Zoomにて）
内容としては、各圏域での報告、各部会からの報告がありました。また、今年度の活動目標として、「研修事業」「後方支援活動」「関係機関との連携」がありました。
- ・7月21日（水） 第2回就労支援部会（交流ひろばにて）
内容としては、県就労支援部会の報告、12月17日（土）に実施予定のフォーラムについて実行委員よりの報告、アンケート実施から具体的な取組みや課題等を事業所より意見を発表、学校、HW、すわーくらいふより就労支援に係る連携についての報告がありました。
- ・7月21日（水） 第2回自立支援協議会運営委員会（交流ひろば、Zoomにて）
内容としては、各委員会からの報告、運営委員会での代表の見直しを行い

たい旨の話がありました。

- ・9月15日（木）第3回自立支援協議会運営委員会（交流ひろば、Zoomにて）
内容としては、各員会からの報告、自立支援協議会規則の見直しを行った旨の報告、県福祉計画の進捗状況の報告がありました。
- ・10月19日（水）第3回就労支援部会（交流ひろばにて）
久しぶりの集合形式で開催しました。内容としては、HW主催の合同面接会の説明、フォーラム実行委員会よりの報告、アンケート実施から「利用者の高齢化について」事業所での取組み等、「福祉的就労」から「一般就労」への事業所でのアプローチの仕方等を事業所から発表を行いました。
- ・11月2日（水）第4回自立支援協議会運営委員会（交流ひろば、Zoomにて）
内容としては、各員会からの報告、諏訪地域障がい福祉自立支援協議会設置要綱の改正案の提示、県福祉計画の進捗状況の報告がありました。
- ・12月1日（木）役員打合せ（オアシスにて）
内容としては、就労アセスメントの見直し、HW主催の合同面接会の結果についての確認を行いました。
- ・12月7日（水）第4回就労支援部会（交流ひろば、Zoomにて）
内容としては、HW主催の合同面接会の結果報告、地域フォーラム。開催についての告知、県主催の就労支援部会研修についての告知、就労アセスメントの見直しについての現状と質疑、新型コロナウイルス第8波について事業所の現状報告がありました。
- ・1月19日（木）第5回自立支援協議会運営委員会（交流ひろば、Zoomにて）
内容としては、県自立支援協議会の報告、各部会の報告、圏域内新。規事業所の紹介、ガイドブックの新規発行についての意見交換がありました。
- ・1月24日（火）第6回自立支援協議会就労支援部会（Zoomにて）
「障害者総合支援法改正法施行後3年の見直しに係る障がい者の就労支援について（仮題）」について厚生労働省担当官による講演がありました。内容として、就労系事業所の現状や就労選択支援についての説明がありました。
- ・2月14日（火）第5回就労支援部会（交流ひろばにて）
1月24日（火）実施の講演内容報告、次年度県就労支援部会圏域代表者選出、養護学校及び移行支援事業所での就労アセスメント実施報告、次年度フォーラム実行委員選出、今年度のまとめとして出席した事業所から感想やコロナ対応についての意見を伺いました。

【協議内容のまとめ】

- ・今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響がありましたが、集合以外にもZoomを利用したの部会を開催できました。
- ・一般就労への取り組み状況アンケート、利用者の高齢化についてのアンケートを実施しました。
- ・就労アセスメントシートの実施状況の報告を行いました。
- ・圏域内で実施されたフォーラムや就職説明会の告知や報告を行いました。

【評価及び今後の課題】

- ・今年度も新型コロナウイルス感染の状況を鑑みての活動となりました。
- ・座談会など部会独自の活動は出来ていませんでした。
- ・圏域内のフォーラムや就職説明会等の告知や報告、就労系事業所に係る総合支援法改正施行後3年経過の見直しについての報告も行うことが出来ました（詳細については次年度に再度説明会を行う予定）。
- ・当初目的としていた、就労に関わる職員が「働く」というキーワードについての考えを深く掘り下げ、就労支援部会がその情報共有や相互理解の場となれるような環境作りをと考えましたが、思うように活動出来ていませんでした。しかし養護学校や就労に係る団体等が参加して頂けたので、徐々に裾野は広がっていると感じました。
- ・次年度では、現場で直接支援している職員を含めた座談会や就労に係る情報の共有や討議等が行えればと考えます。

【決算】

科 目	収入額	支出額	差引金額	摘 要
学習会	25,000 円	0 円		未実施
	25,000 円	0 円		未実施
合計	50,000 円	0 円		
当期残額	50,000 円	0 円	50,000 円	

(令和5年3月31日現在)

相談支援部会

- 【部会長】 鈴木 美和子 (オアシス)
【副部会長】 森田 美理 (Social Lab Globe)
青木 のな (信濃医療福祉センター)
野澤 仁志 (下諏訪町保健福祉課)

【協議目標】 相談支援体制の充実・強化のための取組について協議する。
相談支援専門員が考える地域の課題の収集と検証を行う。

【部会開催と活動内容】

第1回 令和4年4月28日(木) <オンライン (Zoom) >

- ・令和3年度相談支援部会報告(案)、令和4年度相談支援部会計画(案)について
- ・計画相談 諏訪圏域の用紙の見直しについて
変更：児童のアセスメント表にストレングスの欄を追加。
年齢や特性に合わせて、必要な項目を選択する、者の項目を追加するなどして活用。
確認：児・者ともに更新時には必ずアセスメント行う。
- ・課題と感ずる支援・連携モデル事例の報告(オアシスより)

第2回 令和4年6月22日(水)

- ・部会内研修会：ストレングスモデルによるグループスーパービジョン事例検討会(4事例)
- ・地域のサービスや資源に関する情報交換、新規開設事業所の紹介等
多動の高3男子の散髪をしてくれる床屋さんとは？ → 出張可能な床屋さん情報

第3回 令和4年8月25日(水)

- ・GSV検討会その後の報告
- ・地域生活支援拠点事業の整備についての説明
緊急時の支援事例(休日・夜間に関わらず)の共有
「協議会で検討が必要な緊急時の対応方法や手立てとは？」
拠点事業の空床確保事業や緊急ショートの利用が難しかった事例

第4回 令和4年10月25日(火)

- ・災害の備え支援…相談員として取り組んでいること、その際に課題と感じたことについて
- ・茅野市オンデマンドバス のらざあを利用してみたいの意見
→ 茅野市福祉21ワーキングへ意見を提出した
- ・地域のサービスや資源に関する情報交換、新規事業所の紹介等

第5回 令和4年12月20日(火)

- ・地域の課題提起「同行援護の支援について」→ 代替策をグループで検討した
- ・個人情報に関する研修会「改めて考える個人情報とは ICTの活用で安全に共有しよう」
講師 福祉の現場ICT活用協議会 岡田理事

第6回 令和5年2月17日(金)

- ・地域生活支援部会より依頼と提案
「災害時にも活用できるヘルプカードと基本情報の見直しについて」
→ ワーキンググループにて次年度に協議を行う
- ・令和5年度の部会内容についてのグループ協議
→ 意見をもとに正副部会長が後日計画書を作成する

協議のまとめ

- ・地域の中で課題と考えることを共有し協議を行った。また、相談員より「視覚障害者の同行支援のサービスが使えない状況がある」という地域の状況に対して、部会内で代替案を集め解決に向けた。
- ・研修会を2回(ストレングスモデルによるGSV事例検討会、個人情報に関する研修会)行った。

評価および次年度へ

- ・地域生活支援部会からの提案を受け「災害にも活用できるヘルプカードと基本情報の見直しについて」令和5年度の部会内で協議を行うこととする。

【決算】

科目	収入額	支出額	差引金額	摘要
令和4年度部会費	20,000円			
個人情報に関する研修会		33,000円		講師謝礼
合計	20,000円	33,000円		
当期残額			△13,000円	

医療的ケア部会

【部会長】 笠原 久美子（オアシス）

【副部会長】 坂本 恭子（諏訪市社会福祉課）

今井 由美（放課後のぞうさん）

【今年度の活動テーマ】

- ・医療的ケア児等コーディネーターの役割の明確化と配置について。（勉強会含む）
- ・当事者（家族）のニーズ把握と整理。
- ・地域資源調査結果をもとに医療的ケア児者の社会資源の分析・発掘への働きかけ。
- ・医療的ケア児者の災害時に向けた課題への取り組み。

【具体的な取り組み】

第1回 5月10日（火） zoom 開催

1. 今年度の部会の年間計画の確認
2. 諏訪圏域医療的ケアコーディネーターの役割についての意見交換

第2回 7月4日（月） ハイブリット開催

1. 諏訪圏域医療的ケアコーディネーターの役割についてのGWにて意見交換

第3回 10月31日（月） ハイブリッド開催

1. 諏訪圏域医療的ケアコーディネーターの配置について報告
→部会員の方から（医療・福祉・教育）の立場からCoとどのように連携していけばいいか（ア）の意見交換。
2. 医療的ケアコーディネーター連絡会の報告
3. 第4回部会での研修について

第4回 令和5年2月6日（月） ハイブリッド開催

1. 地域安心ネットワーク事業と支え合いマップ事業の紹介
富士見町社協での取り組みについての話を聞く勉強会
2. 今年度の振り返りと次年度の活動内容についての意見交換

【協議内容まとめ】

これまでの成果

- ・令和5年度より、諏訪圏域に医療的ケアコーディネーターの配置がされる事になった。
福祉サイドのコーディネーターをオアシスに業務委託する事になった。

【評価及び今後の課題】

評価

- ・令和5年度より配置される、諏訪圏域の医療的コーディネーターの役割として
 - ① 退院時の地域の窓口となる個別支援。
 - ② 支援者どうしのつなぎ役になる、多職種協働支援の調整。
 - ③ 地域の課題整理や資源開発を行う、地域づくり。となった。令和6年度に諏訪圏域の実情に合った医療側のコーディネーターの配置に向け役割や業務内容の検討を行っていく事になった。
- ・令和3年度に行った災害時の研修を受け、令和4年度では諏訪圏域に合わせた内容で、富士見町社協の方から、地域安心ネットワーク事業と支え合いマップ事業の紹介をして頂き、どんな事が必要なのか具体的に知る事ができた。

今後の課題

- ・医療側の医療的コーディネーターの設置に向けての体制作り。
- ・当事者(家族)のニーズ整理・把握。
- ・諏訪圏域における医療的ケア児者の社会資源の分析・発掘。
- ・医療的ケア児者の災害時に向けた課題への取り組み。

【決算】

科目	収入額	支出額	差引金額	摘要
R4 年度部会費	50,000 円			
合計	50,000 円	0 円	50,000 円	
当期残高			50,000 円	

【年間スケジュール】 3階会議室と zoom

- | | | | |
|-----|------|-----------|-------------|
| 第1回 | 令和5年 | 5月8日(月) | 13:30~15:00 |
| 第2回 | 令和5年 | 7月24日(月) | 13:30~15:00 |
| 第3回 | 令和5年 | 10月17日(火) | 13:30~15:30 |
| 第4回 | 令和6年 | 2月27日(火) | 13:30~15:30 |

精神障がい者の暮らしを考える部会

- 【部会長】 清水 利恵 (茅野市地域福祉課)
【副部会長】 湯本 淳貴 (諏訪赤十字病院)
関 真裕美 (あん相談支援室)
鈴木 美和子 (オアシス)

【目的】

障害者（児）福祉計画に位置付けられた「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向けて、必要な事項について協議検討し推進する。

【開催と協議内容】

- 第1回 令和4年6月27日（月）
 - ・部会設置の経緯、部会の運営について 隔月開催（偶数月の開催）
 - ・精神障害にも対応した地域包括ケアシステムについて
 - ・課題、部会で話したいこと等意見交換

- 第2回 令和4年8月29日（月）
 - ・意見交換（グループ討議）
入院されている方の把握について
相談窓口の周知、啓発について

- 第3回 令和4年10月14日（金）
 - ・講演
講師 松本圏域障がい者基幹相談支援センター：紅林氏
ピアンテナ：吉田氏、平林氏
 - ・意見交換（グループ討議）

- 第4回 令和4年12月21日（水）
 - ・精神障がい者の地域移行および地域生活支援に向けたニーズ調査について
 - ・精神障がい者地域生活支援研修会について

- 第5回 令和5年2月10日（金）
 - ・精神障がい者地域生活支援研修会
講師 長野県精神保健福祉センター 大井氏

【評価及び今後の課題】

- ・これまで「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の協議の場の立ち上げについて話し合いを進めてきたが、ようやく諏訪圏域でも部会としてスタートした。しかし協議会の中ですでに検討している議題とも内容が重複することもあるため、まずは部会の活動の周知をすると共に、今後も活動内容を整理しながら他部会・委員会、他機関とも連携・協働を進めていきたい。
- ・「松本圏域でのピアサポーターの活動について」の講演を当事者の方からしていただき、貴重な話をお伺いし、諏訪圏域におけるピアサポーター活動の展望について有意義な意見交換ができた。次年度以降もピアサポーターの方が活躍できる地域づくりについて協議することと併せて、精神障がい者の地域での暮らしを支えられるよう、地域住民の理解を高められるような取り組みについても検討していきたい。
- ・諏訪圏域に合わせた「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向けた活動を行うにあたり、現在の地域のニーズの実情を把握するために圏域内の入院病床のある精神科病院の協力を得て「精神障がい者の地域移行及び地域生活支援に向けたニーズ調査」を実施。次年度以降、調査の結果の分析を行い、精神科に入院されている方々が退院したあとに、地域の中で安心して暮らし続けるためには、どのような支援や地域の資源が必要かを検討していく予定。

【決算】

科目	収入額	支出額	差引金額	摘要
今年度予算	50000 円			
講演会謝礼		5000 円		
印刷代		0 円		
合計	50000 円	5000 円		
当期残額			45000 円	

(令和5年3月31日現在)